



会長 斎藤 宙也
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) Edward Ong (シンガポール)
"Faith, Love, Action" 「信念、愛、行動」
アジア太平洋地域会長 (AP) 田上 正 (熊本むさし)
"Act now with faith and love!"
「信念と愛を持って行動しよう!」
東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)
「ワイズらしさの再発見」
"Rediscovering Y's Uniqueness"
かながわ部長 (DG) 兵藤 芳朗 (鎌倉)
「共に歩み 交流を深め 部の「絆」を強めよう」
横浜クラブ会長 (CP) 斎藤 宙也
「信念と愛をもって行動しよう!」

監事 松島 美一
ブリテン 秋元 美晴
担当主事 菅原 歩

＜今月の聖句＞

古田 和彦

新しい歌を主に向かって歌え。
主は驚くべき御業を成し遂げられた。
右の御手、聖なる御腕によって
主は救いの御業を果たされた。

(詩編 98 編1節)

今月のひとこと

熊米高脈万変博女新初

佐竹 博

新しい年を迎えました、皆様、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

今回も公益財団法人日本漢字能力検定協会による「今年の漢字」2025年版について触れたいと思います。「今年の漢字」は12月12日(頃)

に発表されると決まっているそうです。それは12月12日が「漢字の日」であるからとのこと。では、なぜ、12月12日が漢字の日かというと「12(いいじ)、12(いちじ)」のごろ合わせからで、「毎年「いい字」を少なくとも「一字」は覚えてほしいという願いが込められて」いるそうです。さ



て、今年の第1位は「熊」、昨年は5回目の1位となった「金」でした。当然「熊」は初、1995年の第1回から数えて31回の歴史の中でも動物は2003年の「虎」と2回しかありません。今年も例年同様に、下半期に情報量が多いものが選ばれる傾向がありそうです。「熊」ですが人命にかかる被害、農作物の被害、建物等の被害に加え、子どもたちの登下校、駅伝などの屋外スポーツ大会の開催延期や中止など本当に大きな影響が出ています。仙台YMCAや、盛岡YMCAでは学童保育や保育園の活動の際に、熊の出没情報には大変神経をとがらせていると聞きました。

さて、第2位から10位は「米」「高」「脈」「万」「変」「博」「女」「新」「初」、米が高い、とイメージ通りです。脈・万・博は、万博関連だそうです。ミヤクミヤクが「脈」なのはちょっと、、、と思いましたが、4位なので、本当は「脈々」だったのかも。変・女・新・発は、政治がらみ、高市総理就任に関連しているそうです。11位から20位は「暑」「楽」「政」「金」「大」「税」「働」「愛」「幸」「国」でした。昨年上位にあったもの、昨年も同じランクのものなど常連が目立ちました。

横浜YMCAの2025年度は、夏の三都市YMCA会議が最大の国際行事で、参加した上海YMCAから大熊貓の置物をいただきました。保育園では環境に配慮した食材を調達していて、米は農家と直接契約して調達していますが、値段も高くなりました。会員総会で報告した2024年度決算は公益財団法人の決算が出るまで脈が速くなりました。ぎりぎり約1000万円の収支差を確保できほつとしました。事業構造が変化し、収支差が出づらくなっています。佐竹博の2026年の目標は、職員のみんなが働きやすい職場づくりをすること、特に全職員の70%が女性である横浜YMCAは、社会の変化に

合わせ、新しい施策も打ち出していくうと思います。定年が近づいてきましたが、YMCAに出会った40年前の初志を忘れず今年も頑張ります。ちょっと無理やりのものもありますが10個使ってみました。

今年1年が、素晴らしい年になり、社会の人々がよい一年だったとポジティブな感じを選ぶような年であってほしいと思います。私たちYMCAもそのために社会に、地域に、人々に仕える働きをしてまいります。本年もよろしくお願ひいたします。

＜2025年12月例会実績＞

在籍者	出席者	出席率	B F
11名	メン 6名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 6名	73% (メキヤップ 2名を含む)	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円
			前月修正

＜1月の行事＞

EF JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
17	土	11:30	第二例会	Zoom
17	土	15:00	第2回部評議会	中央Y
17	土	18:00	第一例会兼新年交流会	廣東飯店

第一例会報告

秋元 美晴

日時：12月11日（木）14:00～16:30

場所：横浜中央YMCA + belle横浜ビル

出席者：秋元 大高 古賀 斎藤 菁原 古田

12月の第一例会は、横浜クラブの例会の会場として利用している横浜中央YMCAのいくつかの事業施設を見学することにしました。

①国際情報ビジネス科

1年生の留学生40名を対象にした簿記の授業では、「消費税」についての講義が行われていました。留学生の日本語の能力は日本語能力試験N2以上ということでした。講師が話す日本語は普通のスピードでした。講義のなかでは、「仮払い消費税」「売掛金」「商品代入」など、専門用語が飛び交い、私のように経済について何も知らない者にはとても難しく感じました。しかし、簿記の試験に合格する留学生もいると伺い、国際情報ビジネスを学ぶためには、普通の日本語能力に加え、専門語の知識が必要なのだということがわかりました。元日本語教師の私は思わず、「みなさん、がんばってください！」と声援を送りたくなりました。

次にビジネス日本語の会話のクラスを見学させていただきました。2年生38名のこのクラスでは「商品の発送ミ

スに謝罪する」という練習を2名ずつ（1人が客、1名が謝罪する会社員）がロールプレイ（実際の仕事や生活の場面を想定して、登場人物になりきって演じることで、スキルや対応力を身につける練習方法）を行っていました。来週発表するということで、それぞれのペアは真剣に練習していました。



ロールプレイでビジネス日本語の学習に励む留学生たち

②のんびりんこ

のんびりんこは中央YMCAから歩いて3分のbelle横浜3階にある、中区地域子育て支援拠点で、中区とYMCAが共同で運営しています。ここでは中区の子育て世代が安心して利用できる交流・相談の場を提供しており、中区の地域子育て支援の中心的な役割を担っています。具体的には、未就学児とその保護者を対象に、ひろばの提供、子育て相談、イベント開催、子育てサポートシステム（相互援助活動）の運営などを通じて、地域全体で子育てを支える仕組みの中核となっています。妊娠中から利用でき、妊婦の不安にも対応しています。大学の実習生も受け入れており、子育て支援者的人材育成にも力を入れています。中区の住民だけでなく、他の区の人も無料でいつでも利用できます。利用者は右肩上がりで、11月の利用者は1,658名にも上るそうです。最近の傾向としては、父親の参加が多いことや外国籍の利用者の増加があげられるということでした。

③ウェルネススポーツクラブ

このクラブには、子ども向けと成人向けの年間プログラム・イベントがありますが、私たちが見学したのは、木曜日のクラスで5名の小さな女の子たちが新体操をしていました。ここでは、空手・サッカー・バスケットボール、トランポリン、ジムナスティック、アクアティック、チアダンスなど、毎日異なるクラスが開かれています。それだけインストラクターも多くいらっしゃり、充実したプログラムだと感心しました。一方、それだけ運営も大変ではないかと思いましたが、「スポーツを通じて人を育み、健康な社会を作る」という使命を掲げ、多角的にスポーツを推進するYMCAの精神を体現していると思いました。

④アフタースクール（学童保育）

1年生から6年生までの小学生が、月により異なりますが、12月は84名が通っているそうです。私立、公立を問わず、いろいろな小学校から参加していて、お休みは日・祝日で、平日は19時、最長20時まで。学校が休みの場合は、8時半からいることができます。単なる預かりではなく、YMCAならではの英語の勉強や異文化交流などの活動を

通して、安全な生活の場と創造性や思いやりの心を育む教育の場を提供していると感じました。テーブルの周りに6, 7人集まっていたので、何をしているのか見せてもらいましたら、松ぼっくりで小さなクリスマスツリーを作っていました。本棚の前で静かに本を読んでいる子どもも3人いました。宿題でしょうか、勉強をしている女の子も2人いました。それぞれ思い思ひのことをしているのが印象的でした。なお、週1、2回ユースリーダーボランティアの大学生が8名来てくれると伺い、頼もしくなりました。

⑤英語クラスのプライベートレッスン

1人の男の子がホワイトボートの前で、PPTを見せながら、英語で説明しているようでした。先生と女の子は黙つてそれを聞いていました。この2人はインターナショナルスクールに通っているそうですが、グループレッスンではレベルが高すぎる子どもたちのために開かれているレッスンと聞き、YMCAのきめの細かい姿勢に感心致しました。

ビジネス

- ・ DBCの大坂長野クラブより、クリスマスプレゼントとして「アクリルたわし」をたくさんいただきました。横浜クラブよりアンジュのクッキーをお送りすることにしました。
- ・ 次次期部長は12月2日の選考委員会で古賀ワイズが推薦され、1月17日の評議会で決定します。
- ・ 次年度クラブ会長として古賀ワイズにお願いすることに決定しました。1月17日の評議会に報告します。なお、秋元ワイズが副会長、会計は大高ワイズ、書記は古田ワイズがつとめることに、そして2027年6月から1年間は齋藤ワイズが会長となることが決まりました。
- ・ 新年会は1月17日廣東飯店で行われますが、我がクラブからは7名が参加予定。
- ・ ブリテン1月号に載せる「今年の抱負」(約300字)を各自書いて、秋元ワイズに送ってください。

新年の抱負

気のせいでありますように

秋元 美晴



私はNHKの朝の連続テレビ小説「ばけばけ」を毎朝楽しみに見ています。ラフカディオ・ハーンとその妻・セツの夫婦の物語ですが、私はもともと日本語教師ですから、ヘブン先生が話す日本語にとても興味があります。何かお願いするときには「願います」というセリフや、「(隣に)居させてください」の使役形「させる」が言えず、いつもヒロインのトキに確かめる場面などを見ると、日本語を教えていたころを思い出します。ところで、「ばけばけ」の主題歌「笑ったり転んだり」の中に、「日に日に世界が悪くなる 気のせいか そうじやない」というフレーズがありますが、昭和20年代生まれの私には現在のことを言っているように思えてなりません。どうぞ「気のせいでありますように」。

新年の抱負

伊藤 誠彦



昨年12月6日～18日、突然意識が無くなり、2023年10月の時と同様に救急病棟に入院した。幸い、今回も無事退院できた。しかし、救急病棟での2週間の寝たきりの生活は前回同様、体力、特に筋力の低下に著しい悪影響を与え、その後のリハビリ計画にも影響を与えている。

病院での治療は治療の主目的に重点を置き、他の目的は二の次にされる。今後は、退院の時には、単に「退院できる状態」ではなく、「退院しても良い状態」になるよう努めたい。

仕事の文章化

大高 治



過去の抱負はそれぞれポジティブでした。インドの聖人が唱えた人生第4期の生き方をヒントにした抱負の他、多くは80の手習いでした。私が生きられるのは現代であり将来です。近年脚光を浴びて来たChatGPTに聞いてみました。流石多様な情報がインプットされており、それらを組み合わせる能力にも長けているようです。団体への入会者が減っていることも良く知っています。そして「第4期に入った人の仕事は、次の誰かを探し出すよりも、次の世代が困らない形で手放す」こと、即ち手放せるようにしておくことだと言えましょう。

会員増強は皆で取り組む課題です。私は「予算の立案と会計」という仕事を文章化し、そこでの判断基準、大切にして来た原則、しなくて良いこと等をまとめて行きたいと思います。

新年の抱負

押川 幸男



今年は、宮崎の高校卒業50周年ということで、学年最後の同窓会が2月に予定されています。50年振りに同級生に会うのを楽しみにしています。昨年は沼田市の姉妹都市である南ドイツのフュッセン市を市長や市議会議員として国際交流協会の方々と公式訪問することができました。今年は、近くの南ドイツのミュンヘンでの保育研究所を視察する予定で、その後一度行ったかったドイツのクリスマスマーケット巡りを考えています。最近、新聞を読むのが億劫になっていて、身体が動けるうちに、行きたい所を訪ねたいと切に思うようになりました。今年も横浜クラブの納涼会を楽しみにしています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

風立ちぬ、それでも生きようと試みる

古賀 健一郎



松任谷由実さんの「ひこうき雲」は、友人の死をモチーフに、別れを悲しみだけでなく、空へ旅立つ存在として肯定的に描いた曲です。この曲は、風立ちぬの主題歌として、作品全体に静かな余韻を与えています。映画の中で、菜穂子が語る「Le vent se lève (風立ちぬ)」に対し、二郎は「il faut tenter de vivre (生きようと試みなければならぬ)」と応えます。この言葉には、どのような困難な時代にあっても、希望を失わず誠実に生き抜こうとする覚悟が込められています。平和や人権が脅かされ、世界が分断と不安を深める今こそ、私たちはワイルドの精神に立ち、キリスト教精神に根ざしながら、奉仕を通して隣人に寄り添い、友情を深め、「生きようと試みる」歩みを続けていきたいと、新年にあたり心を新たにしています。

新年の抱負

齋藤 宙也



新年明けましておめでとうございます。昨年は皆様のお力添えのおかげで、当クラブとして多くの活動を実りあるものにすることができました。今年はその歩みを更に確かなものにする一年(半年)にしたいと思います。引き続き、一人一人が楽しみながら学び合い、互いの興味や個性を尊重し合える場作りをしていきましょう。良いプログラムがこの先もそろっています。・・・というのが、会長としての新年の抱負ですが、今年も7月からロータリークラブの幹事の予定であり、こちらの出席率も下がってしまうでしょう。仕事も繁閑の波はありますが、引き続き、夏を中心無理をせずやっていきたいと思っています。」となります。よろしくお願ひします。

スタート地点に立つ前に

佐竹 博



先日、YMCAが指定管理者として運営している横浜市緑区にある「東本郷地域ケアプラザ」のデイサービスルームに、利用者の方が達筆で記した長寿祝いの一覧がありました。還暦・緑寿・古希・喜寿・傘寿・米寿・卒寿・白寿・百寿・茶樹・皇寿・・・とあって、最後が162歳:天寿とありました。コメントには、「ここまで来たらもういいでしょう」とのこと。そんな長生きした人はいないでしょうし、ウィットにとんだセンスある方だな、と思いました。これだけ呼び名が並ぶと、天寿はともかくとして、人生100年時代ともいわれますし、還暦はスタート地点のようで、これから、まだまだというように感じました。さて、私もあと17カ月で還暦です。今年は50代最後の年、スタート地点に立つ

前に、自分をしっかりと見定め、何をしようか、どう生きていこうか準備をする1年にしたいと思います。

適度な運動の機会をつくる

菅原 歩



毎年人間ドックで体重、血液検査などを行っています。2年前、体重が増えた際に医師からは「飲みすぎ、食べすぎ、運動不足」と指摘され、ショックを受けて歩くことを多少意識して臨んだ昨年の人間ドックでしたが、結果はあまり改善されず健康指導を受けました。その時のアドバイスを元に毎日8,000歩以上、早歩きを意識する、夜ご飯をお米から豆腐に切り替えることにより、半年後の再検査では経過良好。無理なく健康維持ができそうでした。今年は更に運動の機会をつくるため、子どもが産まれてから遠のいていた低山の山登りやハイキング、ボルダリングを再開したいと思います。

新年の抱負

田口 努



新年を迎え、来る3月末のYMCA退職を前に、これから的人生を示すポジティブな言葉をAIに尋ねてみた。AIからは、「心機一転」「再出発」「新たな門出」「セカンドキャリア」「新たな挑戦」「自己成長」「ネクストステージ」といった意欲的な言葉が提示され、それぞれの定義と共に「あなたの状況に合わせた最適な言葉を選んでください」と勧められた。どれも素晴らしい響きだが、しっくりこない。私にとってのこれからは、何かを新しく獲得しに行くというよりは、すでに神様から与えられている「賜物」を再発見する旅なのかもしれない。自身の賜物をどう生かし、家庭や地域の方々にどう仕えていくか。その答えをゆったりと探しつつ、感謝と共に歩む日々にしていきたい。

フードロス(ごみ減量)

古田 和彦



歳を重ねてこの年も迎えることができたこと、感謝しかありません。もう、大きなことはできないので、小さな一歩でも踏み出したいと考えているこの頃です。昨年、YVLFで環境問題について学びましたが、そのなかで「はちどりの一滴」との考え方を学びました。とても小さな一歩でも、みんなが協力すれば大きな力になるとの考えです。わたしにできることとして、朝の散歩のときはゴミ袋とトングをもって出かけ、公園のゴミを拾うことを始めましたが、今年はそれに加えて、「フードロス」を取り組みます。取り組むといつても、まずは、スーパーの買い物はできるだけ夕方に行き、割引表示された食品を買います。物価高騰の折、経費削減にもなり一挙両得です。それと、ごみの分別には一層注意を払い、再利用ゴミを少しでも増やしています。ここに書くことにより自分に言い聞かせています。

第108回 Y-Ys 協議会 報告

齋藤 宙也

日時 2025年12月2日（火）19:00～20:30

会場 横浜中央YMCA6階606教室

出席者（横浜クラブ）4名（古賀健一郎（途中参加）、佐竹博、齋藤宙也、古田和彦）

今回は大和クリエイティブYサービスクラブが当番、開会礼拝司会は島田徹担当主事、その後の進行は小松同クラブ会長。

1. 開会礼拝 聖書 マルコによる福音書11章12節

祈祷 島田徹

2. 挨拶 横浜YMCA総主事 佐竹博

ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部部長 兵藤芳朗

3. 協議

① Y-Y's 合同新年会

兵藤部長から説明。既に案内も出ているが、広東飯店で開催予定

② 2026年4月～27年3月のかながわ部行事

正式には来年の第2回部評議会で決定するが、5.15～16一泊研修会、6.20 つづきクラブ20周年記念行事、6.27 第3回部評議会など

③ 2026年7月～27年6月のYMCAの行事

Y-Y's 協議会の今後の日程、AIDS文化フォーラム（8.7～9）、チャリティーラン（10.17）、会員総会（27.5.29）など

4. 報告

① 第28回インターナショナルチャリティーラン

当初の見込みよりオンライン参加者が増え、当日の個人参加者が少なかった。富田宇宙選手のパラリンピック銀メダルの展示及び撮影、イベントブースでのアンプティーサッカーと車椅子ラグビーの体験が好評であった。Tシャツは2003枚、昨年より売れた。収支差=プログラムの支援金は397万円。

② You&I コンサート

11月1日（土）、今年3月にできたばかりのボッシュホールで開催。300人定員で、290人ほど来た。当日の様子について、写真及び動画を用いて説明があった。東新部からも、企画を参考にしたいということで来ていた。来年（10月24日）はまた公会堂に戻す予定。

③ 国際・地域協力募金

使用している募金袋の配布があった。目標は800万円で、ウクライナ支援やプロテクト・ア・チャイルド、タンタワン奨学金、パヤオセンターへの自転車の寄贈などに使用される。

地域協力の方は、ピースキャンプ、横須賀平和を考える勉強会、こども日本語クラブなどに使用される。

④ 横浜YMCAクリスマス礼拝

⑤ 横浜YMCA会員大会

別途配布されるチラシのとおり。

⑥ かながわ部報告

後半は、1月と5月の企画で会員増強につなげたい。部共通のチラシを作った。11月22日（土）の部大会で、新しい部旗を披露した。

⑦ 各クラブ報告（各クラブ会長）

横浜クラブからは、前回協議会以後の活動（清掃活動、チャリティーラン、例会プログラム）及び12月の予定される例会プログラムについて説明を行った。

・次回 第109回

日時：2026年3月3日（火）19:00～20:30

会場：今回と同じ（予定） 担当：金沢八景クラブ

横浜YMCAクリスマス礼拝報告

古賀 健一郎

横浜YMCAのクリスマス礼拝は、12月20日（土）13時30分より、横浜華僑基督教会にて開催されました。礼拝は会場参加とYouTubeライブ配信による形式で行われました。

横浜YMCA会員事業委員会の徳澤洋子さんの司会のもと、第一部は礼拝、横浜YMCA混声合唱団による美しい贊美が捧げられました。第二部はハンドベル演奏の構成となり、充実したプログラムが展開されました。

横浜華僑基督教会の楊睦盛執事から、「救い主イエス・キリスト」をテーマに、クリスマスマッセージが語されました

（聖書箇所：ルカによる福音書2章11節）。楊執事は、40年以上にわたり教会学校で教えてこられた経験を踏まえ、子どもたちが「クリスマスは何の日ですか」という問い合わせに「イエス様の誕生日」と正しく答えられる一方で、「なぜイエス様の誕生を祝うのか」という本質的な意味について、丁寧に伝える必要性を感じてきたことを語られました。約2000前、イスラエルの地に誕生したイエス・キリストが、なぜ今まで世界中で祝われ続けているのか。その理由を、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです」（ルカ2章11節）の御言葉を引用しながら説明されました。

また、現代日本におけるクリスマスの商業的側面にも触れ、クリスマスケーキやサンタクロースといった要素が広く親しまれている一方で、聖書には「クリスマス」という言葉も、12月25日という日付も、ケーキやサンタクロースも記されていないことを指摘されました。そのうえで、聖書の本質についてChatGPTに質問した結果を紹介し、「聖書とは、キリスト教信仰の中心となる書物であり、神が人間に示された神の言葉、御言葉と信じられている書です」という回答を「的確な説明」として評価されました。さらに聖書を「神様からのラブレター」と表現し、イザヤ書43章4節「私の目には、あなたは高価で尊い。私はあなたを愛している」の御言葉を通して、神の愛が一人ひとりに向けられていることを示されました。

メッセージの中心として紹介されたのは、ヨハネの福音書3章16節で、「聖書の中の聖書」とも呼ばれる箇所です。「神は実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠の命を持つためである」という御言葉に、イエス・キリストの名を具体的に当てはめて朗読されました。

神がイエス・キリストをこの世に遣わされた理由として、

①神の愛を示すため

②罪から救うため

③永遠の命を与えるため
の三点が示されました。人間の罪については、アダムから始まる人類の歴史に触れつつ、「すべての人は罪を犯して神の榮光を受けることができない」「罪から来る報酬は死である」との聖書の言葉が引用されました。さらに、イエス・キリストが十字架において私たちの罪を身代わりとして負われたこと、そして「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられた方です」との御言葉を通して、復活の出来事が歴史的事実として、多くの証人によって証しがれています。

最後に、イエス・キリストを神であり救い主として受け入れることの大切さが語られ、この良き知らせを「福音（グッドニュース）」として世界に伝えていく使命が示されました。参加者一人ひとりに向けて、罪を認め、イエス・キリストを救い主と信じ、赦しと永遠の命を受け取るよう招きがなされ、祈りをもってメッセージは締めくられました。

礼拝の中で献金の時が設けられ、横浜 YMCA 会員事業委員会委員長の古賀健一郎 **ワイス** が献金のお祈りをささげました。続いて、当日の献金が「横浜 YMCA 国際・地域協力募金」として用いられることが伝えられ、募金を受ける横浜 YMCA 国際事業委員会委員長の丸谷士都子さんより、感謝の言葉が述べられました。

祝祷は、横浜華僑基督教会の王壽誠牧師より、楊陸盛執事の通訳を通してささげられ、その後、後奏をもって礼拝は静かに閉じられました。

第一部の締めくくりにあたり、横浜 YMCA 総主事の佐竹博さんが、会場を提供してくださった横浜華僑基督教会の皆様をはじめ、礼拝に関わったすべての方々への感謝を述べられ、閉会の挨拶をされました。

その中で佐竹総主事は、「世界各地でクリスマスの行事が行われる中、クリスマスは人々が祈りをささげる時であり、戦火や抑圧の中にあっても、平和と平安がもたらされることを願う時である」と語られました。また、「イエス・キリストの誕生を祝うこの時に、神が示された愛を伝える使命が、YMCA につながるすべての人々に託されている」と述べられ、YMCA の働きを通して神の愛を伝え続けていきたいとの思いが示されました。

第二部では、横浜 YMCA Port Friends によるハンドベルの美しい音色が教会堂に響き渡り、クリスマスの喜びが豊かに表現されました。なかでも、YMCA 学童クラブの子どもたちが手話を交えて参加した「きよしこの夜」は、ハンドベルの響きとともに会衆の心に深く沁み入り、心温まるひとときとなりました。

(結びにあたって)

私たちの世界では、紛争や戦争によって平和が今なお脅かされています。そのような現実の中で語られたクリスマスマッセージは、クリスマスの本来の意味を聖書に立ち返って示し、イエス・キリストの誕生から十字架、そして復活へと至る救いの中心を、世代を超えて分かりやすく伝えるものでした。

横浜華僑基督教会、横浜 YMCA 混声合唱団、横浜 YMCA Port Friends、YMCA 学童クラブの皆様のご協力を通じて、商業化された現代のクリスマスの中にあって、救い主の誕生という原

点を静かに、しかし力強く指し示す礼拝となつたことは、横浜 YMCA クリスマス礼拝として大きな意義を持つものであったと受け止めています。

なお、横浜クラブからの参加者は、古賀、齋藤、佐竹、菅原、古田の各ワイスでした。



横浜 YMCA クリスマス礼拝 (於: 横浜華僑基督教会)



担当主事 菅原 歩

朝も昼も寒さに身を縮こまらせてしまいますが、例年に比べると今年は暖かいのでしょうか？気象庁ホームページで横浜市の平均気温の差を見てみると、昨年との差は大きくありませんでした。私が子どもの頃は冬休みには雪が降り、友だちと一緒に雪ダルマやかまくらを作つて冬を楽しんでいました。今の子どもたちにもそのような自然体験ができる機会を家族や YMCA でたくさん体験してもらいたいです。

12月

- 1日～7日 YMCA 人権週間
20日 YMCA クリスマス礼拝
26日～29日 WINTER CAMP

1月例会プログラム

日時：1月 17日 (土) 18:00～

場所：廣東飯店

(第一例会兼 YMCA・ワイス新年交流会)

例会報告 大高ワイス

2月の行事予定

日	曜	時間	行事内容	場所
11	水 休	10:00～ 12:30	会員大会・ピースフォーラム	とつか YMCA
25	水	11:00	第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイスメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org
電話 045-307-7556